

国際的な研究助成機関について

- CEPI: 感染症流行対策イノベーション連合
- GHIT Fund: グローバルヘルス技術振興基金

CEPI (Coalition for Epidemic Preparedness Innovation)

感染症流行対策イノベーション：2017年1月19日ダボス会議において正式発足した官民連携パートナーシップ。
 (日本(厚生労働省)、ドイツ、ノルウェー、ビル&メリンダゲイツ財団、ウェルカムトラスト等が拠出)

目的

- 感染症流行に備え、パンデミックの可能性があるにも関わらず市場性に乏しい感染症を対象とする**ワクチンの開発**を世界連携で促進する。
- 感染症流行発生時の**ワクチンの研究開発、製造、臨床評価を促進する技術的・制度的なプラットフォームを構築**する。

対象疾患

- WHOブループリント (An R&D Blueprint for Action To Prevent Epidemics) において公衆衛生危機を起こす可能性があり、効果的な医薬品又はワクチンが存在しないことから、研究開発を加速する緊急な必要性があるものとして挙げられた感染症※。
 ※クリミア・コンゴ出血熱、エボラ・マールブルグ等ウイルス感染症、ラッサ熱、MERS、SARS、ニパ等ヘニパウイルス感染症、リフトバレー熱、ジカウイルス感染症、Disease X (2018年2月時点)

対象研究フェーズ

- **臨床試験第Ⅱ相試験 (用量設定、免疫原性の確認試験) 終了まで**進めること。

公募状況

- 第1回公募：ラッサ熱、MERS及びニパウイルス感染症に対するワクチン開発
 - ・ 2017年公募 ・ 採択数8件
- 第2回公募：ワクチン製造を効率化する製造技術(プラットフォーム技術)の研究開発
 - ・ 2017～2018年にかけて公募 ・ 応募数35件
 - ・ 応募者やパートナーは北米、南米、欧州、アフリカ、アジア、豪州のアカデミア、バイオ企業、製薬企業等
- 第3回公募：リフトバレー熱、チングニアに対するワクチン開発
 - ・ 第一期(2019年公募)：総予算48M USD、1～8件採択予定
 - ・ 第二期(2020年公募予定)：総予算100M USD
 (研究期間は3年が目途)

GHIT (Global Health Innovative Technology) Fund

公益社団法人グローバルヘルス技術振興基金：2013年に日本政府が国際保健分野の国際貢献を強化することを外交の重要課題として位置づけ創設。
 (外務省、厚生労働省、ビル&メリンダゲイツ財団、日本国内企業が拠出)

目的

- 日本が有する新薬開発技術を活用し、日本の国際貢献を強化すると共に、新たな資金とイノベーションを創出することで、感染症で苦しんでいる途上国の保健医療問題の解決に貢献する。
- 効果的な**治療薬、ワクチン、診断薬**を必要とするすべての人々に**購入しやすい価格**で届けること。

対象疾患

- マラリア
 - 結核
 - NTDs (Neglected Tropical Diseases)※
- ※WHOが定める17種類の熱帯病（ Dengue熱、シャーガス病、リーシュマニア症、住血吸虫症、マイセトーマ、土壌伝播寄生虫症等）

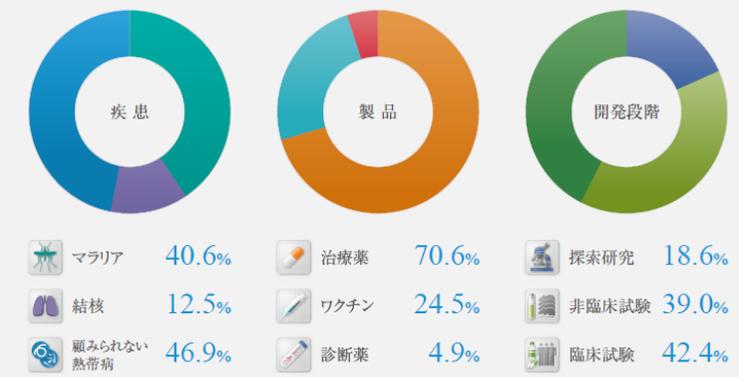
対象研究フェーズ

- GHITでは、探索研究（標的研究、ヒット化合物探索、リード化合物探索）、非臨床試験、臨床試験、薬事申請と医薬品等の製品化の実現を目指している。

特色

- **日本の企業・大学等機関と海外の企業・大学等機関とのパートナーシップが前提。**
- **プライベートセクターのようにマイルストーンを設定、進捗管理。**
- 基本的には2年でGo/No Go判断

第一期(2013年度~2017年度)の投資概要



GHIT Fund ANNUAL REPORT 2017より

GHIT Fund 第一期の実績
 2013年3月時点
 FY2013-FY2017



R&D 研究開発の推進と製品化の実現



GHIT Fund 2.0 Strategic Plan FY2018-FY2022より

